



灯笼 天満御堂  
嘉永7年(1854年)

二科会会員大淵陽一  
画伯の筆による

『飛龍の図』



中尊宮殿裏の後門壁画

弥陀の名号となえつつ

信心まことにうるひとは



本堂内陣

憶念の心つねにして

仏恩報ずるおもいあり

(浄土和讃)

勿体なや

祖師は紙衣の九十年

句 仏



彰如上人(句仏)御染筆による  
宗祖650年記念句碑(明治43年4月)



本願寺御旧跡を  
表示する石標(明治42年7月)



講堂玄関前



講堂



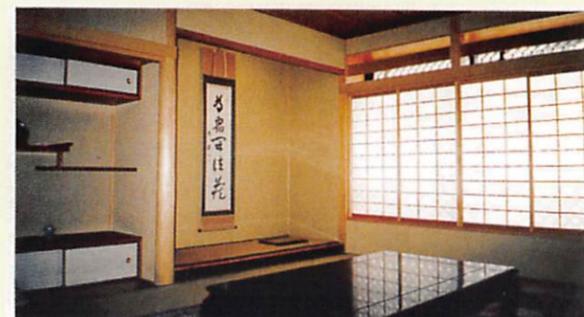
無憂華の間(会議室)



水蓮・曼珠沙華の間



御内仏



牡丹の間

別院は、その川崎本願寺の伝承を受け継いだのであります。

明治43年親鸞聖人650回御遠忌の時、第22世現如上人の御染筆による『六字城』の額が、本堂正面に掲げられましたが、まさしく別院が

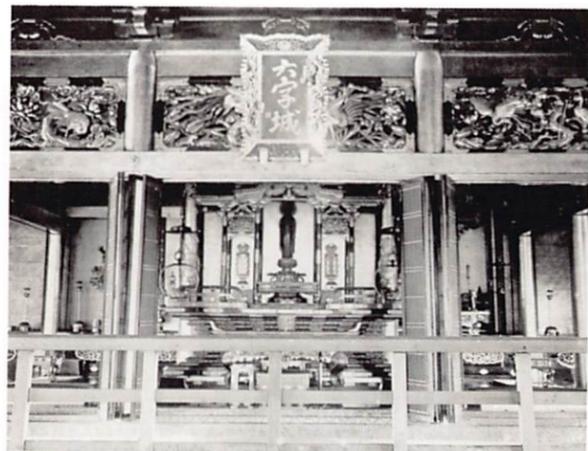
石山本願寺以来の伝統であることを示している証拠です。

江戸時代に入り、大阪が三郷(南組、北組、天満組)に行政区画されるや、天満組の宗旨人別帳(人口調査)の巻納め寺院として、社会的に寄与すると共に、北区

の精神文化の殿堂としての役割を果たしてきたものであります。

しかし誠に残念にも、昭和20年6月の空襲にあって灰燼に帰しましたが、戦後いち早く、昭和25年に仮本堂を建立、やがて、昭和34年に大阪読売テレビの発足にあたり、テレビ局に境内を分割貸与し、翌年本堂の復興が出来ました。

以来40年、本堂のみの状態で今日に及びましたが、蓮如上人500回御遠忌を迎えるにあたり、別院の機能を充実いたすべく、有縁の方々のご協力を得て、本堂及び諸施設の整備に着手、平成12年5月に今の本堂・庫裏の再建を見るに至りました。



## 法座 (ほうざ) 法会 (ほうえ)

修正会	1月1日～3日
春季彼岸会・永代経	3月24日
夏の御文法会	6月24日
盂蘭盆会	8月11日～12日
秋季彼岸会・永代経	9月24日
報恩講	10月3日～5日

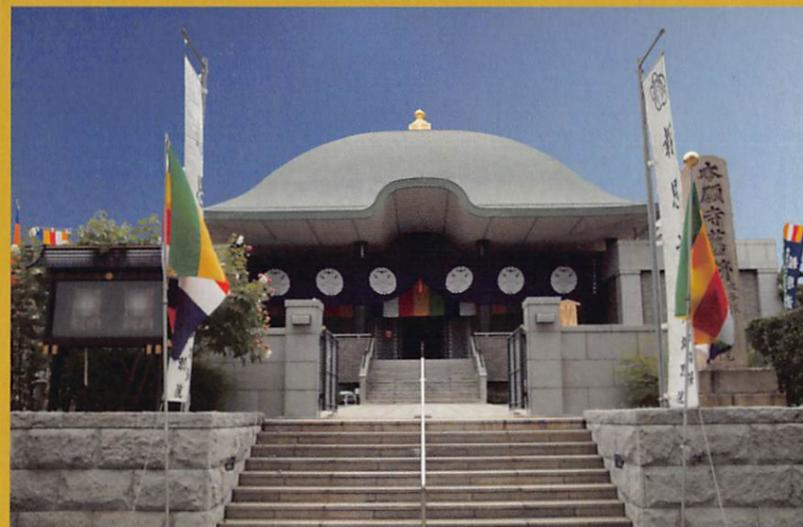
同朋の会	毎月第2日曜日
定例法話	毎月24日

### 天満別院へは

JR東西線「大阪天満宮駅」下車2番出口  
または、地下鉄堺筋線「南森町」下車、JRの2番出口が便利です。



●法事・行事についてのお問い合わせは  
真宗大谷派 天満別院  
530-0044 大阪市北区東天満1-8-26  
電話 (06)6351-3535 FAX (06)6351-3547



## 真宗大谷派 天満別院

### 天満別院の由緒と沿革

当院は真宗大谷派に属し、慶長6年(1601)11月本願寺第12世教如上人の開創の寺院であります。

別院のはじまりは、教如上人に従って、信任の厚かった佛照寺祐恵の尽力によるところが多大でありましたので、建立の初めより祐恵が留守居役となり、彼の子孫(11代まで)が受け継いで、その整備と発展に尽力されたのであります。

天満別院を近年まで親しく”佛照寺さん”と呼んできたのも、このような歴史的事実があるからであります。



もともと本願寺と大阪の関係は、直接的には本願寺第8世蓮如上人からであります。上人の建立された石山坊舎(大阪城付近)は、いわゆる「大阪」の発足点でありましたが、それはやがて「石山本願寺」となりました。有名な石山合戦で本願寺門徒の信仰の強力を内外に示したので、頼山陽は「南無六字城」と讃えたのであります。

10年間も続いた石山合戦が終わり、本願寺は紀州鷲の森、ついで泉州貝塚へ、天正13年(1585)に大阪天満川崎へ移り、天正19年京都堀川へ移っていましたが、天満